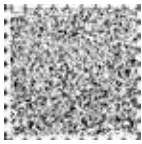


ユニバーサルツーリズムで
すべての人に優しいまちへ

南さつま市観光協会は、観光の視点からすべての人にとって優しいまちをつくるため、障害や年齢に関係なく旅行を楽しむユニバーサルツーリズムに着目してきました。2016年12月、観光庁の「ユニバーサルツーリズムの促進に向けたモデル事業」の実施団体に選ばれたのを受け、近隣市町と連携し誰もが安心して楽しめる受け入れ態勢づくりに取り組みました。

事業着手にあたり、市内の観光関連施設を対象にバリアフリーの現状調査を行った協会の切通真紀子さんは、「障害を理由に行きたい所に行けないのはおかしい」とこちらが思っている、受け入れる側にとっては簡単なことではない」と、自分たちの思いと現実とのギャップを痛感しました。しかし、協会が開催したユニバーサルツーリズムセミナーをきっかけにバリア

フリー
化の改
修工事
を行っ



一般社団法人 南さつま市観光協会



茶摘み娘姿で茶摘み体験も。コスチュームは、協会の女性会員たちが作製



豊富な観光資源の有効活用を促進するため、体験メニューを整備。野菜収穫体験も好評



協会のホームページには、市内約60カ所の観光関連施設のバリアフリー状況を掲載



切通さんと後藤さんは、5月に「砂の祭典」、7月に「第8回バリアフリー観光推進全国フォーラムかごしま大会」を控え精力的に活動中



2017年5月のバリアフリーツアーでは、南さつま市の人気イベント「吹上浜砂の祭典」で「ランディーズ」に乗り砂像鑑賞を満喫

た旅館もあり、手応えも実感しています。「いつでもどこでも好きな所に行ける」ということが、すべての人にとって当たり前になってほしい」と切通さんは話します。

観光の視点から交流を育み
思いを共有できる場を

事業開始から3カ月間で、広域連携を見据えた先進地視察や事例発表を交えたユニバーサルツーリズムセミナー開催、市内の海・山を生かした体験メニュー整備に着手。特別支援学校の教育旅行の受け入れにも対応するため、協会内に相談窓口も設置しました。

2017年5月には、旅行会社と連携して「吹上浜砂の祭典」を鑑賞するバリアフリーツアーを企画。東京や北九州などから参加した車椅子利用者ら7名が、砂の上でも走行可能な車椅子「ランディーズ」に乗って砂像鑑賞を楽しみました。現在は、障害のある人もない人も一緒に楽しめる音楽フェスの開催も模索中。「これらの取り組みの根底にあるのは、交流」。今後もすべての人が楽しめる企画を提案し、思いを共有していきたいと話したのは協会の後藤まどかさん。

誰もが住みやすいまちの実現と共に、ユニバーサルツーリズムが地域に根ざすことを願って活動を続けています。

一般社団法人
南さつま市観光協会

南さつま市加世田本町34-2
TEL.0993-53-3751
http://kanko-minamisatsuma.jp/
(「いろは南さつま」で検索)

